

(株)阿部長商店 ホテル観洋創業者宅（気仙沼市・内の脇地区）



地域住民を救った「命のらせん階段」



気仙沼市・南三陸町はじめ大船渡市、石巻市で水産業と観光業を営む(株)阿部長商店。創業者であり、会長の阿部泰児氏は気仙沼市内の脇地区にあった自宅に東日本大震災の5年前、後付けの工事でらせん式の外階段を取り付けました。内の脇地区は高台の避難場所も遠く、すぐには逃げられない地域のため、この地区の高い建物だった自宅の屋上に住民が避難する目的で階段を取り付け、3回ほど地域住民の方々と避難訓練も行っていました。あの日、約30名がらせん階段を登り、屋上で津波から命を守ることが出来ました。



阿部泰児氏は自身が1960年5月のチリ地震津波で多くの人命が失われた経験をし、さらに東日本大震災でも繰り返された悲しみをもう2度と繰り返したくないという気持ちを強くし、震災の教訓を語り継ぐ目的で、自宅を震災遺構として残す事を決断しました。

自助・共助の教訓として、命を守ることの大切さを伝えるためにこの場所は多くの方に訪れていただき、さらに伝え広がる場所になることを願っております。



邸宅の屋上

屋上で助かった方々の中には、足が悪い人や、身重の女性もおり、らせん階段を登って大切な命を守ることが出来ました。

気仙沼市は道路が車の渋滞によって身動きが取れなくなり避難できなかった方々もいる中で、自助・共助の率先した取り組みや積み重ねによって多くの方々の命が守られたことを、次世代にも伝承していくことを望みます。



「苦難の中で何を学ぶか それが人生を大きく左右する」

阿部 泰児氏
(1933-2019)

三陸地域の水産業の振興だけでなく、観光業を創業し地域と共に歩んできた阿部泰児氏のメッセージは震災伝承だけでなく、地域の歴史や文化、自然の恵み、防災・減災の学びとして、未来へ語り継がれていきます。